

医学教育分野別評価 獨協医科大学医学部医学科 年次報告書 2025（令和7）年度

医学教育分野別評価の受審 2022（令和4）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2022年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2023年10月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36を踏まえ、2025年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024年4月1日～2025年3月31日を対象としている。また、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

評価報告書の領域1.2、領域1.3及び領域1.4の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、学修成果のさらなる周知、学生の行動規範の策定、使命と学修成果の策定・改善への学生の参画、さらに広い範囲の教育関係者からの意見聴取等の助言・示唆を受けた。これらに対し2023年度は、各種教育関係委員会の組織改編、教育プログラムの包括的な評価のための体制構築、FDによる学修成果の周知等を実施した。2024年度については以下に取り組んだ。

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・さまざまな職階の教員、学生によるカリキュラムの検討の機会をさらに増やすことが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学医学部における教育プログラムの円滑な運営と教育の質の向上を目的として、2024年4月付で関連規程の制定・改正を行った。これにより、各種委員会組織の機能と権限を明確にし、学生教育の充実を図り、学修成果のさらなる向上を目指す。具体的には、主要な会議体へ

の学生委員の参画を拡充し、幅広い教育関係者を含む委員構成により、医学部教育関係 PDCA サイクルを運用している。[資料 1-01] [資料 1-02] [資料 1-03] [資料 1-04] [資料 1-05]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-01 医学部教育関係組織図
- ・資料 1-02 獨協医科大学医学部教育企画委員会規程
- ・資料 1-03 獨協医科大学医学部成績判定委員会規程
- ・資料 1-04 獨協医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料 1-05 獨協医科大学医学部教育プログラム評価委員会規程

1.3 学修成果

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・学修成果としてディプロマ・ポリシーを定め、さらにその修得過程を提示するコンピテンシー・マイルストーンを設定している。

改善のための助言

- ・学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重する適切な行動をとることを修得させるための行動規範を策定し、明示すべきである。
- ・学生や教職員などに学修成果を周知し、内容をさらに深く理解できるようにすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生に学修成果の理解を深める一環として、プロフェッショナルリズム教育において、将来どの様な医師になりたいのか十分に考え、目標を明確化・言語化し、白衣式における誓いの言葉を策定する「誓いの言葉プロジェクト」を実施した。[資料 1-06]

教職員に対しては、医学教育ワークショップにおいてコンピテンシーを検討する機会を設定するとともに、FDの一環としてその内容を全教員に周知した。また、上記ワークショップでの議論に基づき、3 ポリシー改定ワーキンググループ (WG) を設置し、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）を踏まえて、ディプロマ・ポリシー (DP) 等の改定を進めている。今後、DP の改定と併せて学生の行動規範を策定する予定である。[資料 1-07] [資料 1-08] [資料 1-09]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-06 令和 6 年度医学部白衣式（学内だより抜粋）
- ・資料 1-07 第 27 回医学教育ワークショップ開催案内
- ・資料 1-08 『第 27 回医学教育ワークショップ記録集』の供覧について
- ・資料 1-09 第 1 回 3 ポリシー改定 WG 議事要録

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・卒業時の学修成果と卒業後研修修了時の学修成果を十分に関連づけ、連続性を持たせることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部教育プログラム評価委員会において、コンピテンシー・マイルストーンの改正の必要性や、内容の検討に取り組んでいる。[資料 1-10]

また、卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム（CC-EPOC）の導入に向けて、学外有識者による FD セミナーを開催するとともに、ポートフォリオ WG を設置し、導入にあたって必要となる方策の検討や、学内への提案に取り組んでいる。[資料 1-11] [資料 1-12]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-10 第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録
- ・資料 1-11 第 10 回教育支援センターセミナー
- ・資料 1-12 第 1 回ポートフォリオ WG 議事要録

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と学修成果の策定・改善に学生を参画させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部教育企画委員会において、各学年の代表を学生委員として参画させ、医学部の使命に相当する「教育理念」や、目標とする学修成果に相当する DP 等の策定・改善に取り組む。2024 年度は、3 ポリシー改定 WG が作成した DP 改定案を医学部教育企画委員会で協議し、学生等の意見を反映のうえ改定を進めている。[資料 1-13]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-13 第 2 回医学部教育企画委員会議事要録（抜粋）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・他の医療職や患者代表など、さらに広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラムの評価・改善を所管する医学部教育プログラム評価委員会において、学生、医師以外の医療職者及び地域医療の代表者を委員に選出した。また、教育プログラムの編成等に権限を持つ教授は委員から除外し、各領域の幅広い教員を構成員とした。[資料 1-14]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-14 医学部教育プログラム評価委員会委員

2. 教育プログラム

評価報告書の領域 2.2、領域 2.4、領域 2.5 及び領域 2.6 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、行動科学等に関する高学年まで系統的なカリキュラムの構築、学生のリサーチマインドの涵養、診療参加型臨床実習の充実、基礎医学と臨床医学の垂直的統合教育の拡充等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2023 年度は、6 年一貫の「メディカル・プロフェッショナルリズム」の開講、「医学研究実習」の拡充、「基礎統合演習」の開設等を実施した。2024 年度については以下に取り組んだ。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・学修成果を示すディプロマ・ポリシーと関連づけた形で策定したカリキュラム・ポリシーに基づいたカリキュラムを定めている。
- ・アクティブ・ラーニングの導入を推奨し、学生の内発的モチベーションや能動的学修能力の涵養を図っている。

改善のための助言

- ・一般教育・基盤教育を高学年で学ぶ「くさび形カリキュラム」の機能を高め、カリキュラムとしてより充実させるために、履修者を増やすための方策を検討すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

近年の国際化の流れを受けて、6年一貫型医学英語教育をカリキュラムに取り入れた。2024年度から各領域で医学用語（medical terminology）を中心に教授する機会を設け、学生への医学英語教育に取り組んでいる。[資料 2-01]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-01 6年一貫型医学英語教育の必要性

2.2 科学的方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・「医学研究実習」について、科学的方法を学べるように期間を含め充実させるべきである。
- ・臨床実習の現場において、EBM をさらに活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「医学研究実習」について、2024年度は2年次に「医学研究実習（ベーシック）」として2週間、4年次に「医学研究実習（メディカル）」として4週間、合計6週間に実習期間を拡充した。また、「医学研究実習（メディカル）」では臨床医学の教員も実習指導者に参画することとし、内容を充実させた。さらに、2025年度には実習期間を計12週間に拡充することを計画している。[資料 2-02] [資料 2-03]

また、本学図書館では「UpToDate」や「Cochrane Library」等のEBM実践のためのツールを導入しており、学生・教職員を対象に利用ガイダンスを開催している。今後、診療ガイドラインを臨床実習（CC）の受入診療科に整備し、学生の閲覧に供することを計画しており、EBMをさらに活用するべく対応を予定している。[資料 2-04]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-02 医学研究実習シラバス
- ・資料 2-03 令和6年度オリエンテーション資料
- ・資料 2-04 図書館オンラインサービス利用ガイダンス

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・1年次の「リベラル・スタディ」、3年次の「医学研究実習」や自由選択科目「医学研究室配属」において、大学独自の、あるいは先端的な研究の要素を含んでいる。

改善のための示唆

- ・1年次から6年次の自由選択科目「医学研究室配属」や研究セミナーに参加する学生が一部に限られており、より多くの学生が参加することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「医学研究室配属」について、各講座に受け入れを求め、学生の配属先の選択肢を拡げた。また、「医学研究実習」の実習期間を2024年度は計6週間、2025年度は計12週間に拡充するとともに、授業の一環として外部講師による特別講義を開催した。これらの取組により、学生のリサーチマインド醸成を図っている。[資料2-03] [資料2-05] [資料2-06]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-03 令和6年度オリエンテーション資料
- ・資料2-05 「医学研究室配属」の受け入れについて
- ・資料2-06 特別講義の開催（学内だより抜粋）

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・社会医学に関する科目が各学年でバランスよく配置され、指導と学修のために十分な時間が確保されている。

改善のための助言

- ・行動科学について、1年次の「行動と心理」だけでなく、高学年まで系統的なカリキュラムを構築すべきである。
- ・医療倫理学を中心とする、1年次から6年次までの系統的なプロフェッショナリズム教育を進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

倫理学・法学・行動科学などを低学年時に履修し、その後、研究倫理・多職種連携・医療倫理など、順次性をもった6年一貫のプロフェッショナリズム教育を行う「メディカル・プロフェッショナリズム（D-Mep）」を2023年度より開講している。引き続き、D-Mep ワーキンググループを定期的に開催し、教育内容の改善を図っていく。[資料2-07]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-07 「メディカル・プロフェッショナリズム」シラバス

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・行動科学、医療倫理学を含め科学的、技術的、臨床的進歩に従って調整できるよう系統的なカリキュラムを定めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行動科学、医療倫理学を含む順次性をもった6年一貫のプロフェッショナリズム教育である「D-Mep」において、定期的にD-Mep ワーキンググループを開催し、教育内容の改善を図っている。また、カリキュラム編成にあたっては、自己点検・評価報告書を踏まえた調整・修正を行っており、2024年度は第4学年の「D-MepIV」において、医療経営と金融に関する講義を組み込んだ。[資料 2-07] [資料 2-08]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-07 「メディカル・プロフェッショナリズム」シラバス
- ・資料 2-08 4つのポリシー及びIR情報を踏まえた教育課程の編成について

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・臨床実習の冒頭に内科系、外科系の基幹診療科実習を行い、共通の臨床技能を修得する機会を設けている。
- ・重要な診療科として、産科婦人科、小児科、精神神経科、総合診療科については、1診療科あたり4週間の実習期間が設定され、学生全員が履修している。

改善のための助言

- ・内科、外科を含め同一診療科で十分な実習期間を確保し、診療参加型臨床実習を充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2025年11月に開始するCCから、内科は3つの診療科、外科は2つの診療科で連続3週間の実習期間を確保し、診療参加型臨床実習の充実を図ることを計画している。これに伴い、実習先の診療科で受け入れ可能な学生数を踏まえて、2学年分の学生受け入れが重ならないように、2024年度のCCでは、前半に内科系、後半に外科系を実習するローテーションを編成した。[資料 2-09]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-09 令和7年度CCローテーション

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・教育プログラムの進行に合わせ、さまざまな臨床技能教育を行うカリキュラムを編成している。

改善のための示唆

- ・シミュレーターを用いた臨床技能教育をさらに拡充することが望まれる。
- ・2年次を含む低学年の学生が患者と接触する機会について、さらに時間を確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2025年度に竣工する総合教育研究棟において、シミュレーションルームの拡充を計画しており、シミュレーターを用いた臨床技能教育について一層の充実を図っていくために、シミュレーションルーム WG を発足した。WG では、現在大学の各部署が保有しているシミュレーターの一元管理に向けて検討を進めている。[資料 2-10]

また、2024年度に匿名化处理した医用画像などを共有できる医療機器プログラム「Join LiveView システム」を大学病院に導入し、CC での利用を開始した。2025年度以降は、系統講義でも活用予定であり、手術室や救急初期治療室等の早期体験が困難な臨床現場を教室に居ながらに体験し、疾患や手技について理解を深めることが可能となる。今後、低学年の早期体験実習における最先端医療の実臨床に触れる機会の増加により、医師となるためのモチベーションの向上を図っていく。[資料 2-11]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-10 第 1 回シミュレーションルーム WG 議事要旨
- ・資料 2-11 第 7 回医学部教育企画委員会議事要録（抜粋）

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・臨床医学において臓器別科目での水平的統合教育を行っている。

改善のための示唆

- ・基礎医学と臨床医学の垂直的統合教育をさらに充実することが望まれる。
- ・自由選択科目の実施スケジュールをさらに周知し、学生の要望や出席状況を把握することが望まれる。
- ・基礎医学においても、科目の水平的統合教育を拡充することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

水平的統合教育について、第2学年の「基礎統合演習」に基礎医学の分野間での水平統合を組み入れており、「運動器」、「臨床推論演習」等の科目で基礎医学等と臨床医学との垂直的統合教育を組み入れている。また、水平統合・垂直統合の更なる推進を図るため、臓器・機能別のブロック制講義を導入した。引き続き、医学部カリキュラム委員会において、更なる垂直的・水平的統合型授業の充実や、自由選択科目の展開について検討していく。[資料 2-03] [資料 2-12] [資料 2-13]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-03 令和6年度オリエンテーション資料
- ・資料 2-12 「基礎統合演習」「運動器」「臨床推論演習」シラバス
- ・資料 2-13 第1回医学部カリキュラム委員会議事要録

2.7 教育プログラム管理

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ教務委員会に学生を参加させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教務委員会の改編により、カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ医学部カリキュラム委員会において、各学年の代表学生が委員となるよう委員構成を改善した。[資料 1-04]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-04 獨協医科大学医学部カリキュラム委員会規程

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ教務委員会に、他の医療職や地域医療の代表者等を含む広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部カリキュラム委員会において、看護学部選出の教員及び地域医療の代表者を委員に選出した。[資料 2-14]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-14 医学部カリキュラム委員会委員

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・卒前教育と卒後の教育・臨床実践との間の連携を実質的に進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒後臨床研修医用オンライン臨床教育評価（PG-EPOC）と連携機能を有する CC-EPOC の導入に向けて、学外有識者による FD セミナーを開催するとともに、ポートフォリオ WG を設置し、導入にあたって必要となる方策を検討している。[資料 1-11] [資料 1-12]

また、「Join LiveView システム」を活用し、学生に医療現場の様々な場면을認識させ、問題意識を提起させるカリキュラムの検討を進めている。[資料 2-13]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-11 第 10 回教育支援センターセミナー
- ・資料 1-12 第 1 回ポートフォリオWG議事要録
- ・資料 2-13 第 1 回医学部カリキュラム委員会議事要録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・卒業生の臨床研修先医療機関に対し、研修医の学修成果の修得状況に関するアンケート調査を実施している。

改善のための示唆

- ・「教学 IR センター」が卒業生に対するアンケート結果で得られた情報を分析し、教育プログラムの改良に反映することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の IR 情報の収集・分析を所管する「教学 IR センター」では、卒業生や就職先等へのアンケートを毎年度実施しており、その結果を踏まえて、内部質保証システムによる継続的な教育プログラムの改善を図っている。2024 年度のカリキュラムでは、リサーチマインド涵養のため「医学研究実習」の実習時間を拡充するとともに、社会的視野（グローバル力）を涵養する

ために6年一貫型医学英語教育を取り入れた。また、2025年度カリキュラムでは、「医学研究実習」の実習時間の更なる拡充、及び能動的学修を推進するためにブロック制講義の改善を計画している。[資料 2-03] [資料 2-15] [資料 2-16] [資料 2-17] [資料 2-18]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-03 令和6年度オリエンテーション資料
- ・資料 2-15 獨協医科大学教学 IR センター規程
- ・資料 2-16 獨協医科大学内部質保証システム
- ・資料 2-17 第2回教学マネジメント委員会議事録（抜粋）
- ・資料 2-18 第3回教学マネジメント委員会議事録（抜粋）

3. 学生の評価

評価報告書の領域 3.1 及び領域 3.2 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、技能・態度の評価の確実な実施、評価方法及び結果に利益相反が生じない制度の整備、時機を得た具体的・建設的なフィードバックの実施等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2023 年度は、各種教育関係委員会の改組、ルーブリック評価の導入の推進等を実施した。2024 年度については以下に取り組んだ。

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・学生の評価について、アセスメント・ポリシーを策定し、方法および実施、合格基準、進級基準、および追再試の回数を定め、開示している。
- ・総合試験や第2次、第3次卒業試験は、作成当事者以外の教員や外部の専門家によって吟味されている。

改善のための助言

- ・臨床実習を含む各学年のカリキュラムにおいて、技能・態度の評価を確実に実施すべきである。
- ・評価方法及び結果に利益相反が生じないような制度を定めるべきである。
- ・各科目の評価においても外部の専門家によって吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の技能・態度の評価のため、ルーブリック WG で統一的なルーブリック評価について検討し、2025 年 1 月に開始した CC から、全科でのルーブリック評価を導入した。また、臨床実習委員会において、医学部生への 360 度評価の手順を取り決めた。[資料 3-01] [資料 3-02] [資料

3-03]

評価方法及び結果の利益相反を管理するため、「医学部試験及び成績評価に関する規程」及び「医学部における成績評価異議申立てに関する規程」を改正し、成績評価者に利益相反が生じるおそれがある場合の対応について規定した。[資料 3-04] [資料 3-05]

また、医学部教育プログラム評価委員会において、外部委員を交えてグレード・ポイント(GP)による授業科目間の成績評価比較や、初年次教育科目の検証等を実施しており、引き続き、利益相反の管理や、各科目の評価に係る外部専門家による吟味及び教員間での相互吟味のあり方等を検討していく。[資料 1-10] [資料 3-06] [資料 3-07]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-10 第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録
- ・資料 3-01 第 1 回ルーブリック WG 議事要録
- ・資料 3-02 来年度 CC 実習の評価表について
- ・資料 3-03 臨床実習における医学部生への 360 度評価の充実について
- ・資料 3-04 医学部試験及び成績評価に関する規程の一部改正
- ・資料 3-05 医学部における成績評価異議申立てに関する規程の一部改正
- ・資料 3-06 第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録 (抜粋)
- ・資料 3-07 第 3 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・卒業試験以外の試験についても評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・Mini-CEX や多面的評価をより多く実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部教育関係委員会の組織改編に伴い、医学部教育プログラム評価委員会において、各種試験における評価方法の信頼性や妥当性を検証していく。また、共用試験 CBT の公的化を受けて、2024 年度に導入した第 4 学年総合試験 (CBT 準拠) について、教学 IR センターに相関分析を依頼し、当該資料を踏まえて、4 年生対象の説明会で CBT 成績及び国試合格率との相関について周知した。[資料 3-06] [資料 3-08] [資料 3-09]

さらに、前述のとおり、CC における全科でのルーブリック評価及び 360 度評価を導入した。
[資料 3-02] [資料 3-03]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-02 来年度 CC 実習の評価表について
- ・資料 3-03 臨床実習における医学部生への 360 度評価の充実について
- ・資料 3-06 第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録（抜粋）
- ・資料 3-08 第 4 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録
- ・資料 3-09 4 年生説明会資料

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・学生の学修を促進するために、アクティブ・ラーニングと組み合わせた小テストや自己評価、ルーブリック評価などを導入している。

改善のための助言

- ・コンピテンシー・マイルストーンの達成状況を適切に評価するための評価方法を採用すべきである。
- ・学生の学修と教育進度を判定し促進するために、e-ポートフォリオや形成的評価の活用をさらに進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部教育プログラム評価委員会において、学生の DP 達成度に対する自己評価を踏まえて、コンピテンシー・マイルストーンの検証を行っている。3 ポリシー改定 WG による DP の改定後には、コンピテンシー・マイルストーンを改正し、それに沿った評価方法について検討を予定している。[資料 3-07]

また、教育技法委員会においてポートフォリオ WG、ルーブリック WG を発足し、e-ポートフォリオや形成的評価の活用をさらに進めるため、評価方法の検討と学内への展開に取り組んでいる。[資料 3-10]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-07 第 3 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録
- ・資料 3-10 第 1 回教育技法委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・総合試験や卒業試験以外においても、臨床実習を含め時機を得た具体的、建設的なフィードバックを行うことが望まれる。

- ・臨床実習においても、技能や態度の修得についてさらに充実したフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

継続的な能動的学修の推進のため、2024年度にブロック制講義を導入した。年度当初の試験結果を踏まえて、成績不振学生に対する早期からの指導が必要と判断し、学年担任による個別指導を行うこととした。また、剽窃チェック・採点ツール「Feedback Studio」を導入し、アカデミック・インテグリティを育むための学習支援ツールとして、学生へのフィードバックに活用していく。[資料 3-11] [資料 3-12] [資料 3-13]

なお、前述のとおり、CCにおける技能や態度の修得について、さらに充実したフィードバックを行うため、全科でのルーブリック評価及び360度評価を導入した。[資料 3-02][資料 3-03]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-02 来年度 CC 実習の評価表について
- ・資料 3-03 臨床実習における医学部生への360度評価の充実について
- ・資料 3-11 ブロック制講義に係る担任面談
- ・資料 3-12 第6回医学部教育企画委員会議事要録
- ・資料 3-13 剽窃チェック・採点ツール「Feedback Studio」

4. 学生

評価報告書の領域 4.1、領域 4.3 及び領域 4.4 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、教育関係委員会への学生委員の参画、入学決定に対する疑義申し立て制度の採用、学生の活動への支援等の助言・示唆を受けた。これらに対し2023年度は、各種教育関係委員会の改組、入学決定に対する疑義申し立て制度の整備等を実施した。2024年度については以下に取り組んだ。

4.1 入学方針と入学選抜

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学者選抜の透明性及び公平性の更なる向上を目的として、2024年度入学者選抜から、合否

判定に対して受験者が疑義申し立てできる体制を整備した。[資料 4-01]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-01 令和 6 年度医学部入学者選抜に係る疑義申し立てについて

4.3 学生のカウンセリングと支援

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・カウンセリングを提供する際に、キャリアガイダンスとプランニングもさらに含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学では、キャリアガイダンスとプランニングの指導として「PBL テュートリアル I」において、学生に自身のキャリア形成について考えさせる課題を課している。また、「D-Mep」では、将来のキャリア形成について十分に考え、目標を明確化・言語化する講義を実施しており、2024 年度は医療経営と金融に関する講義を第 4 学年に組み入れた。なお、2025 年度は「PBL テュートリアル」を「D-Mep」に統合し、より一層の指導の充実を図る。[資料 2-07] [資料 4-02] [資料 4-03] [資料 4-04]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-07 「メディカル・プロフェッショナリズム」シラバス
- ・資料 4-02 「PBL テュートリアル I」シラバス
- ・資料 4-03 「PBL テュートリアル I」課題シート
- ・資料 4-04 令和 7 年度 D-Mep における PBL テューター推薦依頼

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・カリキュラムの実施を担当する委員会、「医学部教育プログラム評価委員会」の委員に学生の代表が含まれている。

改善のための助言

- ・使命や教育プログラムの策定や管理を行う教務委員会に学生が正式な委員として参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。
- ・学生に関する諸事項を審議する委員会に学生の代表を正式な委員として参加させるべきである。

る。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部の教育プログラムの円滑な運営と教育の質的向上を担う各種委員会の機能と権限を明確にするため、2024年4月付で医学部教育関係委員会の改編を行った。これに伴い、使命や教育プログラムの策定や管理を行う「医学部教育企画委員会」、「医学部カリキュラム委員会」、「医学部教育プログラム評価委員会」において、各学年の代表1名を学生委員として参画させた。

[資料 1-02] [資料 1-04] [資料 1-05]

また、学生生活全般に関する事項を審議する「医学部学生生活委員会」においても、各学年の代表1名を学生委員として参画させた。[資料 4-05]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-02 獨協医科大学医学部教育企画委員会規程
- ・資料 1-04 獨協医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料 1-05 獨協医科大学医学部教育プログラム評価委員会規程
- ・資料 4-05 獨協医科大学医学部学生生活委員会規程

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・クラブ活動以外の学生の活動を医学部としてさらに支援し、奨励することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部学生生活委員会に各学年1名の学生委員を参加させることにより、学生委員から自主的な活動についての報告や提案ができる仕組みを構築することで、その活動を支援していく。学生の自主的な取り組みにより、SDGsに関連する活動・プロジェクト等への参画、民間企業、地方自治体等との連携が期待される。[資料 4-05]

また、地域共生協創センターにおいて、地域住民と本学の教職員、学生の3者が協働して、多様化・複雑化した地域住民のニーズに応え、地域の健康問題の解決策やQOLを高めるための具体策を提案していく「地域連携プロジェクト」に取り組んでいる。[資料 4-06]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-05 獨協医科大学医学部学生生活委員会規程
- ・資料 4-06 令和6年度地域連携プロジェクト報告書（抜粋）

5. 教員

評価報告書の領域 5.2 の「改善のための助言」において、すべての教員がカリキュラム全体を把握する仕組みの構築、カリキュラム全体の把握と医学教育に関連するスキルの向上を目的とした医学教育 FD の活性化等の助言を受けた。これらに対し 2023 年度は、全学的な FD を体系的に企画運営する FD・SD センターの設置を実施した。2024 年度については以下に取り組んだ。

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・教員の活動モニタとして、「人事評価表」と「教員業績管理システム」を運用している。

改善のための助言

- ・教員すべてがカリキュラム全体を把握する仕組みを構築すべきである。
- ・カリキュラム全体の把握と医学教育に関連するスキルの向上を目的とした医学教育 FD を体系的に企画運営し、活性化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部カリキュラム委員会において、教員すべてがカリキュラム全体を把握する仕組みの構築に向けて、カリキュラム案を臨床医学連絡会・基礎医学連絡会等の各連絡会に報告するとともに、教務課ホームページに掲載し、教員の意見・要望を確認している。[資料 5-01]

また、2024 年度に設置した FD・SD センターにおいて、医学教育 FD を体系的に企画運営し、月 1 回程度の開催を目標として、活性化を図っている。[資料 5-02]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 5-01 令和 6 年度カリキュラム委員会スケジュール
- ・資料 5-02 令和 6 年度 FD 研修計画・実績

6. 教育資源

評価報告書の領域 6.1、領域 6.2、領域 6.4 及び領域 6.5 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、臨床実習の環境整備、医学研究実習の充実、教育専門家のカリキュラム開発への寄与等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2023 年度は、「医学研究実習」の拡充等によるリサーチマインドの醸成、医学教育ワークショップの開催等を実施した。2024 年度については以下に取り組んだ。

6.1 施設・設備

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「滞在型の学修スペース」として、無線 LAN とグループ学習室、個人閲覧室、PC ルーム等が設置された図書館が整備され、活用されている。
- ・年 1 回の防災訓練において、学生を対象とする避難誘導訓練や安否確認を実施している。

改善のための助言

- ・大学病院内にはシミュレーション施設が整備されて活用されているが、医学科内のシミュレーション室は設備が充実しておらず、さらにシミュレーション教育の充実を図るべきである。
- ・耐震基準に合致したより安全な学修環境を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2025 年度に竣工する総合教育研究棟に、教室や図書館の機能を移設することで、耐震基準に合致した安全な学修環境を確保する。また、ラーニングコモンズ WG 等を設置し、学修環境の有効活用について検討している。さらに、シミュレーションルームの拡充を計画しており、シミュレーションルーム WG では、大学の各部署が保有しているシミュレーターの一元管理に向けて検討を進めている。[資料 2-10] [資料 6-01]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-10 第 1 回シミュレーションルーム WG 議事要旨
- ・資料 6-01 総合教育研究棟に係る WG

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・臨床実習施設として、大学病院の他に、地域の中核病院として二次救急医療を担う「埼玉医療センター」、地域医療を主に担う「日光医療センター」という性格の異なる 2 つの医療センターが確保されている。

改善のための助言

- ・個々の学生が経験した症例を解析し、必要な患者数や疾患群を経験できるように臨床実習の環境を整えるべきである。
- ・指導者に対して、教育内容や評価方法を統一化する指導者講習会を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生が経験した症例の蓄積を図るため、ポートフォリオ WG において、CC-EPOC の導入に向けた検討を進めている。また、2025 年 11 月に開始する CC から、内科は 3 つの診療科、外科は 2 つの診療科で連続 3 週間の実習期間を確保し、診療参加型臨床実習の充実を図る。これに伴い、

実習先の診療科で受け入れ可能な学生数を踏まえて、2024年度のCCでは、前半に内科系、後半に外科系を実習するローテーションを編成した。[資料 1-12] [資料 2-09]

ループリック WG において、内科系基幹診療科実習及び外科系基幹診療科実習の共通ループリックを作成するとともに、全科でのループリック評価を導入し、教育内容や評価方法の統一化を図っている。引き続き、教育技法委員会において、評価方法の構築や学内へのFDに取り組んでいく。[資料 3-02] [資料 3-10]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-12 第1回ポートフォリオ WG 議事要録
- ・資料 2-09 令和7年度CCローテーション
- ・資料 3-02 来年度CC実習の評価表について
- ・資料 3-10 第1回教育技法委員会議事録

6.3 情報通信技術

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「ICT活用型学習・授業支援システム（LMS）」および電子ジャーナル・電子ブック・各種データベースに学内外からアクセス可能となっている。
- ・電子カルテに学生が記載した内容を指導医が確認し、他の職種も閲覧し、活用している。

改善のための示唆

- ・担当患者のデータと医療情報システムを、学生が臨床実習で常時利用できるよう医療情報端末をさらに整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「Join LiveView システム」を大学病院に導入し、CCの配属先において、各指導医が学生用アカウントを利用して学生教育に活用している。学生は手元の端末を利用して、手術室のライブ映像、内視鏡センターの内視鏡画像、病理診断時の顕微鏡投影画像等を遠隔で見ながら、臨床経験を積むことが可能となった。また、指導医が手術室のPTZカメラを遠隔操作しながら解説を行うことで、術中の手技等について学生の理解度を高めるなど、CCの環境整備に取り組んでいる。[資料 2-11]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-11 第7回医学部教育企画委員会議事要録（抜粋）

6.4 医学研究と学識

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・科目履修に関連した学会参加等に対して、旅費等の支給制度が整備されている。

改善のための示唆

- ・「医学研究室配属」や「基礎研究医プログラム」への参加が増えるよう、より一層周知することが望まれる。
- ・必修の「医学研究実習」について、医学研究と教育が関連するように期間および内容をさらに充実させ、教育資源の活用を図ることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「PBL テュートリアル I」において、学生が医学研究について調査を行う課題があり、課題を通して「医学研究室配属」への参加を促している。また、「医学研究実習」について、2024年度は2年次に「医学研究実習（ベーシック）」として2週間、4年次に「医学研究実習（メディカル）」として4週間、合計6週間に実習期間を拡充するとともに、授業の一環として外部講師による特別講義を開催した。さらに、「医学研究実習（メディカル）」において、臨床医学の教員も実習指導者に参画することとし、内容を充実させた。これらの取組により、学生のリサーチマインド醸成を図っている。[資料 2-02] [資料 2-06] [資料 4-03]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-02 医学研究実習シラバス
- ・資料 2-06 特別講義の開催（学内日より抜粋）
- ・資料 4-03 「PBL テュートリアル I」課題シート

6.5 教育専門家

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「教育支援センター」と「教学 IR センター」に所属する教育専門家が教育技法および評価方法に関するセミナーを定期的に企画し、実施している。

改善のための助言

- ・教育専門家がカリキュラム開発にさらに寄与する方針を策定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教学 IR センターの教員をチーフタスクフォースに迎えて、医学教育ワークショップを開催し、議論の内容を教育課程に反映しながら、教育内容や授業運営の改善・向上に努めている。
[資料 1-07]

地域医療教育学、institutional research（機関研究）、国際交流の分野を網羅し、本学の医学教育全体の発展に寄与できる組織として、2025年4月付で「医学教育学講座」を新設し、医学教育の専門家がカリキュラム開発に寄与すること、及び、組織改編により「教育開発・国際

交流センター」を設置し、医学教育学講座スタッフが、各部門を一元的に管理することを決定した。[資料 6-02] [資料 6-03]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-07 第 27 回医学教育ワークショップ開催案内
- ・資料 6-02 令和 6 年 9 月学長諮問会議議事要録（抜粋）
- ・資料 6-03 令和 7 年 2 月学長諮問会議議事要録（抜粋）

7. 教育プログラム評価

評価報告書の領域 7.1、領域 7.2、領域 7.3 及び領域 7.4 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、教育関係委員会の役割分担と責務の明確化、客観性をもった評価データに基づく評価基準や評価方法の確立・実施、長期間で獲得される学修成果に係る教育プログラムの定期的・包括的な評価等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2023 年度は、教育関係委員会の組織改編、教育プログラム評価のための体制構築等を実施した。2024 年度については以下に取り組んだ。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「教学 IR センター」が 2015 年に設置され、2018 年に改組されて 3 名の専任教員を含め 6 名の教職員が配置されている。

改善のための助言

- ・「教務委員会」、「医学部教育プログラム評価委員会」、「医学教育分野別評価委員会」などの委員会の役割分担と責務を明確にし、教育プログラムを評価する仕組みを整理すべきである。
- ・カリキュラムの構成要素として、知識のみならず技能・態度についての教育方法、評価方法についても、教育プログラムを評価する仕組みを実施すべきである。
- ・コンピテンシー各項目の到達度合いについて、学生の自己評価のみでなく、客観性をもった評価データに基づいて教育プログラムを評価する仕組みを確立し、実施すべきである。
- ・「教学 IR センター」や「医学部教育プログラム評価委員会」をさらに有効に機能させて、課題を特定して対応を確実に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部教育関係委員会の役割分担と責務を明確にするため、「医学部教育プログラム評価委員会」が教育プログラムの包括的な評価を所管することとし、「医学教育分野別評価委員会」を廃止するなど、内部質保証システムを見直し、医学部教育関係 PDCA サイクルを構築した。[資料

1-01] [資料 2-16] [資料 7-01]

医学部教育企画委員会小委員会である「臨床実習委員会」及び「教育技法委員会」において、360度評価やルーブリック評価による、学生の技能・態度についての教育方法、評価方法を検討しており、「医学部教育プログラム評価委員会」において、これらの教育プログラム全体を検証していく。[資料 3-03] [資料 3-06] [資料 3-10]

「医学部教育プログラム評価委員会」において、コンピテンシー・マイルストーンの検証を行っており、今後、コンピテンシー各項目の達成度について、学生の自己評価のみでなく、客観性をもった IR 情報に基づく評価の仕組みの確立に取り組んでいく。[資料 3-07]

「教学 IR センター」において、卒業生や就職先等へのアンケートを毎年度実施しており、IR 情報に基づいて、継続的な教育プログラムの改善を図っている。2025 年度カリキュラムでは、リサーチマインド涵養のために「医学研究実習」の実習時間の拡充、及び能動的学修を推進するためにブロック制講義の改善を計画している。[資料 2-17] [資料 2-18]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-01 医学部教育関係組織図
- ・資料 2-16 獨協医科大学内部質保証システム
- ・資料 2-17 第 2 回教学マネジメント委員会議事録（抜粋）
- ・資料 2-18 第 3 回教学マネジメント委員会議事録（抜粋）
- ・資料 3-03 臨床実習における医学部生への 360 度評価の充実について
- ・資料 3-06 第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録（抜粋）
- ・資料 3-07 第 3 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録
- ・資料 3-10 第 1 回教育技法委員会議事録
- ・資料 7-01 第 1 回医学部教育企画委員会 議事要録（抜粋）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育方法、学修方法、評価方法などカリキュラムの特定の構成要素について、より一層、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。
- ・長期間で獲得される学修成果について、定期的に教育プログラムを評価することが望まれる。
- ・コンピテンシー・マイルストーンの到達度を、客観性をもって評価することで、長期間で獲得される学修成果について、教育プログラムをより包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

前述のとおり、「医学部教育プログラム評価委員会」において、教育方法、学修方法、評価方法などカリキュラムの特定の構成要素について、教育プログラムの包括的評価に取り組んでい

く。また、教学 IR センターにおいて、学生の入学時・在学中・卒業後の各種 IR 情報を収集・分析しており、内部質保証システムの PDCA サイクルにおいて、教育プログラムの評価・改善に活用している。「医学部自己点検・評価委員会」では、「医学部教育プログラム評価委員会」と連携して、自己点検・評価報告書や医学教育分野別評価の年次報告書の作成を行っており、長期間で獲得される学修成果やコンピテンシー・マイルストーンの到達度等について、IR 情報を踏まえて定期的かつ包括的に教育プログラムを評価している。[資料 2-16] [資料 2-17] [資料 3-06] [資料 7-02] [資料 7-03]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-16 獨協医科大学内部質保証システム
- ・資料 2-17 第 2 回教学マネジメント委員会議事録（抜粋）
- ・資料 3-06 第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録（抜粋）
- ・資料 7-02 第 1 回医学部自己点検・評価委員会議事要録
- ・資料 7-03 第 2 回医学部自己点検・評価委員会議事要録

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・卒後 1 年目の臨床研修医を対象にカリキュラムおよびディプロマ・ポリシーの修得度についての自己アンケート調査を毎年実施している。

改善のための助言

- ・「カリキュラム委員会」や「教育技法委員会」における学生からのフィードバックを分析し、確実に対応すべきである。
- ・学年や領域を越えた教育プログラム全体に対するフィードバックを、より多くの教員と学生から系統的に求め、分析し、確実に対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部教育関係委員会の改編により、「医学部教育企画委員会」、「医学部カリキュラム委員会」、「医学部教育プログラム評価委員会」、「医学部学生生活委員会」に、各学年の代表 1 名が学年委員として参画し、教員とともに教育関係 PDCA サイクルに関与している。[資料 2-03]

また、「医学部教育プログラム評価委員会」では、所管する授業評価等の取組において、より多くの教員・学生からフィードバックを求めるため、回答率及び実効性の向上のための検討を継続的に行い、2025 年度から学生による授業評価等の実施方法を改善することを決定した。引き続き、IR 情報を踏まえて、教育プログラム全体に対するフィードバックの分析・対応に取り組んでいく。[資料 3-07] [資料 7-04] [資料 7-05] [資料 7-06] [資料 7-07]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-03 令和 6 年度オリエンテーション資料
- ・資料 3-07 第 3 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録
- ・資料 7-04 医学部における教育プログラム評価の取組
- ・資料 7-05 第 5 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録
- ・資料 7-06 第 6 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録
- ・資料 7-07 第 7 回医学部教育プログラム評価委員会議事要録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教員および学生に教育プログラムに関するフィードバックを定期的に求め、より積極的に教育プログラムの開発に資することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

前述のとおり、学生・同僚による授業評価について、医学部教育プログラム評価委員会で実効性向上のための検討を重ねており、教員及び学生から定期的なフィードバックを求める体制の構築を図っている。[資料 7-04]

また、医学部カリキュラム委員会では、実務家教員へのアンケート結果、学生委員からの意見書、教学 IR センターによる IR 情報等をカリキュラム編成に活用している。[資料 2-13]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-13 第 1 回医学部カリキュラム委員会議事要録
- ・資料 7-04 医学部における教育プログラム評価の取組

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・卒業生が勤務する医療機関に対して、卒業生の実績についてのアンケートが実施されている。
- ・1 期から現在までの卒業生に対して、就業状況、役職、専門医の取得状況などのアンケート調査が行われている。

改善のための助言

- ・カリキュラム全体を評価するために、学生および卒業生の実績を収集し分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教学 IR センターにおいて、学生の入学時・在学中・卒業後の各種 IR 情報を継続的に収集・

分析しており、学修成果や学生生活等に関する各種データを分かりやすく整理し、大学ホームページで学内外に発信している。[資料 7-08]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-08 ファクトシート（2024 年度版）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・入学者選抜区分と学生の実績について分析し、「医学部入試委員会」や「教務委員会」にフィードバックしている。

改善のための示唆

- ・学生の実績を分析し、各学年のカリキュラム立案に関する委員会に確実にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

前述のとおり、教学 IR センターで収集・分析した IR 情報について、医学部カリキュラム委員会におけるカリキュラム編成に活用する体制を構築している。[資料 2-08] [資料 2-13]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-08 4 つのポリシー及び IR 情報を踏まえた教育課程の編成について
- ・資料 2-13 第 1 回医学部カリキュラム委員会議事要録

7.4 教育の関係者の関与

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・卒業生の実績について、系統的に卒業生が勤務する医療機関にフィードバックを求めている。

改善のための示唆

- ・他の医療職、患者、公共ならびに地域医療の代表者など広い範囲の教育の関係者に課程および教育プログラムの評価の結果を閲覧することを許可することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部教育関係委員会の組織改編により、「医学部カリキュラム委員会」では学生委員、看護学部選出の教員、地域医療の代表者が、構成員として教育課程の編成に参画している。「医学部教育プログラム評価委員会」では学生委員、医師以外の医療職者、地域医療の代表者が、構成員として教育プログラムの評価に参画している。[資料 1-04] [資料 1-05]

また、「内部質保証推進委員会」において、毎年度自己点検・評価を実施しており、その評価

結果を報告書として作成し、地元自治体に内容の確認を求めている。また、自己点検・評価報告書や医学教育分野別評価の年次報告書は大学ホームページで公表しており、より広い範囲の教育の関係者が閲覧できる体制を構築している。[資料 2-18] [資料 7-09] [資料 7-10]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-04 獨協医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料 1-05 獨協医科大学医学部教育プログラム評価委員会規程
- ・資料 2-18 第3回教学マネジメント委員会議事録（抜粋）
- ・資料 7-09 獨協医科大学内部質保証推進規程
- ・資料 7-10 獨協医科大学ホームページ（内部質保証）

8. 統轄および管理運営

評価報告書の領域 8.1 及び領域 8.2 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、医学部教育関係委員会の機能と権限の明確化、教学のリーダーシップの責務の明示等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2023 年度は、教育関係委員会の組織改編による機能と権限の整理、内部質保証システムの見直し等を実施した。2024 年度については以下に取り組んだ。

8.1 統轄

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・「教務委員会」、「カリキュラム委員会」、「教育技法委員会」などのカリキュラムに関する委員会の医学部内における役割分担が明確でなく、それぞれの機能と権限を整理すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

前述のとおり、医学部における教育プログラムの円滑な運営と教育の質の向上を目的として、2024 年 4 月付けで関連規程の制定・改正を行い、教育関係委員会の機能と権限を明確にした。
[資料 1-01]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-01 医学部教育関係組織図

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育を統轄する委員会への主な教育の関係者およびその他の教育の関係者の意見を十分に反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和6）年4月付で医学部教育関係委員会の改編及び内部質保証システムの見直しを行い、教育を統括する委員会の役割分担と責務を以下のとおり明確化した。引き続き、主な教育の関係者及びその他の教育の関係者の意見を踏まえて、教育プログラムの継続的な改善に取り組んでいく。[資料1-01] [資料2-16]

「教学マネジメント委員会」は、主な教育の関係者として、学長、副学長、医学部長、看護学部長、教務部長、学生部長を構成員に含み、学生教育並びに学生生活の在り方に関する事項について審議する。「医学部教育企画委員会」は、基礎医学、臨床医学の教員の他、学生委員、学外の有識者を構成員に含み、医学部教育における重要な事項について審議する。「医学部カリキュラム委員会」は、基礎医学、臨床医学の教員の他、学生委員、看護学部選出の教員、及び地域医療の代表者を構成員に含み、カリキュラム編成に関する事項について審議する。[資料1-02] [資料1-04] [資料8-01]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-01 医学部教育関係組織図
- ・資料1-02 獨協医科大学医学部教育企画委員会規程
- ・資料1-04 獨協医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料2-16 獨協医科大学内部質保証システム
- ・資料8-01 獨協医科大学教学マネジメント委員会規程

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・講座等を主宰する主任教授や科目責任者も含め、教学のリーダーシップの責務をより明確に示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学における組織、職制及び職務分掌については、「獨協医科大学学則」「獨協医科大学医学部教員組織規程」により規定されており、教学における執行体制が確立され、組織的かつ効率

的な運用がなされている。学長は校務をつかさどり、所属教職員を統督する。医学部長は、医学部に関する校務をつかさどり、医学部教授会の議長となる。医学部教授会は、講座主任教授等により構成され、学生の入学・進級・卒業に関する事項、学位の授与に関する事項、その他教育研究に関する重要な事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。[資料 8-02] [資料 8-03] [資料 8-04]

また、科目責任者の責務を明文化するため、医学部試験及び成績評価に関する規程を改正した。[資料 3-04]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-04 医学部試験及び成績評価に関する規程の一部改正
- ・資料 8-02 獨協医科大学学則
- ・資料 8-03 獨協医科大学医学部教員組織規程
- ・資料 8-04 獨協医科大学医学部教授会規程

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・医学部の使命と学修成果に照合して、教学におけるリーダーシップを定期的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学長の選考は「獨協医科大学学長予定者選考規程」、医学部長の選考は「獨協医科大学医学部長選考規程」により規定されており、学長及び医学部長のリーダーシップは当該選考手続きにより適切に評価されている。[資料 8-05] [資料 8-06]

「内部質保証推進委員会」において、毎年度自己点検・評価を実施し、外部評価者による客観的評価・検証を受けるとともに、大学基準協会の大学評価（認証評価）及び日本医学教育評価機構の医学教育分野別評価による外部評価に対応し、継続的な評価・改善を図っている。また、学内の各講座等に対して、所属運営に関わる点検・評価表の作成を求めており、2023 年度の実績分から、ホームページに掲載して学内で共有することとした。[資料 7-09] [資料 8-07] [資料 8-08]

さらに、大学全体の行動目標と計画に対する進捗状況及び成果を見える化するため、学長が年度ごとに「アクションプランへの取組状況に関する点検・評価」を行い、教職員に周知している。[資料 8-09]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-09 獨協医科大学内部質保証推進規程

- ・資料 8-05 獨協医科大学学長予定者選考規程
- ・資料 8-06 獨協医科大学医学部長選考規程
- ・資料 8-07 第 3 回内部質保証推進委員会議事要録
- ・資料 8-08 獨協医科大学外部評価及び認証評価に係る実施細則
- ・資料 8-09 アクションプラン点検評価報告書（学内だより抜粋）

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・教育予算における責任と権限が明示され、教育上の要請に沿って教育資源が分配されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生・教員が医学書院の標準医学シリーズの電子教科書や、医師国家試験問題 WEB サービス等を利用できる医学教育支援サービス「iSmart」について、トライアルでの学生・教員のアンケート結果を踏まえて、大学予算で 2025 年度から導入することを決定した。[資料 3-12]

また、本学全体の教育環境の整備のため、高額な教育設備の需要調査を行い、学内選考を経て予算措置する制度を新設した。なお、2024 年度は「バーチャルスライドシステム」が選定され、2025 年度の導入が決定している。[資料 2-17] [資料 8-10]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-17 第 2 回教学マネジメント委員会議事録（抜粋）
- ・資料 3-12 第 6 回医学部教育企画委員会議事要録
- ・資料 8-10 令和 7 年度高額研究設備・高額教育設備に係る需要調査

9. 継続的改良

評価報告書の領域 9 の「改善のための助言」において、継続的改良に関与する組織や委員会の役割分担と権限を整理し、教育プログラムの評価体制のさらなる充実を図って継続的改良を行うべきであるとの助言・示唆を受けた。これに対し 2023 年度は、内部質保証システムの見直しを実施した。2024 年度については以下に取り組んだ。

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・2019 年度に内部質保証推進委員会を設置し、毎年継続的に自己点検・評価を行い、外部評価

を受け、結果を公開している。

改善のための助言

- ・「教学 IR センター」、「医学部自己点検・評価委員会」、「医学部教育プログラム評価委員会」など、継続的改良に関与する組織や委員会の役割分担と権限を整理し、教育プログラムの評価体制のさらなる充実を図って継続的改良を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

上記の領域 1 から領域 8 に記載のとおり、2024 年度は継続的改良を行うための教育プログラムの評価体制の整備と拡充、教育プログラムの継続的な改良に取り組んだ。次年度以降も継続して改良に取り組んでいく。